

## 第920回教育委員会定例会会議録

1 招集日時 令和元年7月11日(木)午後1時30分

2 招集場所 教育委員会会議室

3 出席者 伊東教育長, 伊藤委員, 齋藤委員, 千木良委員, 小室委員, 小川委員

### 4 説明のため出席した者

千葉教育次長, 松本教育次長, 布田参事兼総務課長, 大町教育企画室長, 小幡福利課長, 中村教職員課長, 奥山参事兼義務教育課長, 伊藤参事兼高校教育課長, 目黒特別支援教育課長, 相馬施設整備課長, 駒木スポーツ健康課長, 嘉藤参事兼生涯学習課長, 天野文化財課長 外

5 開 会 午後1時30分

### 6 第919回教育委員会会議録の承認について

伊東教育長 (委員全員に諮って) 承認する。

### 7 第920回宮城県教育委員会定例会会議録署名委員の指名, 議事日程について

伊東教育長 小室委員及び小川委員を指名する。  
本日の議事日程は, 配付資料のとおり。

## 8 秘密会の決定

### 6 専決処分報告

教育功績者表彰について

### 7 議事

第1号議案 県立高等学校将来構想審議会委員の人事について

第2号議案 職員の人事について

第3号議案 宮城県スポーツ推進審議会委員の人事について

第4号議案 東北歴史博物館協議会委員の人事について

伊東教育長 6 専決処分報告, 7 議事の第1号議案ないし第4号議案については, 非開示情報等が含まれているため, その審議等については秘密会としてよろしいか。

(委員全員に諮って) この審議等については, 秘密会とする。

秘密会とする案件は, 10の次回教育委員会開催日程の決定後に説明を受けることとしてよろしいか。

(委員全員異議なし)

※ 会議録は別紙のとおり(秘密会のため非公開)

## 9 教育長報告

(1) 「宮城県高等学校入学者選抜」制度に関する請願への対応について

(説明者: 松本教育次長)

「宮城県高等学校入学者選抜」制度に関する請願への対応について, 御説明申し上げます。資料は, 1ページである。この請願は, 6月12日に宮城県教職員組合から提出されたもので, 今年度から実施される新しい高校入試制度の特色選抜の実施方法等について見直しを求めるものである。まず, 請願事項1「特色選抜の割合の見直しについて」では, 普通科における特色選抜の割合を0%から30%までとし, 普通科以外の学科においては特色選抜の割合を0%から50%までとすることが求められている。新しい入学者選抜制度では, 特色選抜の募集人数の割合については原則として募集定員の10%から50%の範囲内で設定でき

ることとし、体育・美術に関する学科と定時制については例外的に10%とから90%の範囲で設定できることとしている。高校が求める生徒像をあらかじめ公表することで高校の特色が明確化され、中学生の主体的な進路選択に役立つとともに、特色選抜においては、中学校3年間の学習成果や特別活動の実績等も含めて、受験生の多様な資質・能力や適性等を多面的に評価することで、中学校生活の充実につながるものと考えている。これらのことから、特色選抜はすべての公立高校において実施することとし、共通選抜と特色選抜の募集割合については学科の特性等を踏まえ、定められた範囲の中で各高校の判断で設定できることとしている。

次に、請願事項2「特色選抜の審査対象の見直しと審査方法のルール化について」のうち(1)では、特色選抜の審査対象の上限を120から150%程度に抑えることが求められている。新しい入学者選抜制度では、特色選抜の合否判定を行う際に受験生を学力検査、調査書、面接等の合計点の高い順から並べ、特色選抜の募集人数のどの範囲までを審査対象として合否判定を行うか、その上限設定については120%から200%の設定定員の2倍までを対象とする。各校の審査対象の上限設定については、学校や学科の特色に応じて定めており、既に公表している。具体の選抜については、審査対象者の中から求める生徒像に照らして公正・公平に行われるものと考えている。

次に、(2)及び(4)では、部活動にウェイトを置き過ぎた選抜を行わないよう求められているが、特色選抜では、学力検査点、調査書点、面接等の評価の合計点を基に、調査書の記載内容も用いて総合的に審査することとしている。調査書の記載内容については、部活動の成績に限らず生徒会活動やボランティア活動など、校内外で受験生が取り組んだ成果を多面的に評価することとしている。

次に、(3)についてであるが、面接については、学校ごとに面接の形態や内容、評価の観点と観点ごとの配点を公表している。面接はこのように公表している内容に基づき公正・公平に行われるものと考えている。

請願事項3「特色選抜の透明化について」のうち、(1)についてであるが、共通選抜と特色選抜のいずれの選抜で合格したか、またどのような順位で合格したか等については、選抜の過程に関することであり、また入学段階から生徒の序列化を生む可能性も懸念されることから、非公開として取扱うこととしている。

次に、(2)についてであるが、選抜結果については、実施後に高校から報告書を提出させ、適切に実施されているか確認することとしている。

次に、(3)についてであるが、新制度導入から一定期間経過した時点で、中学校、高校双方からの意見等をもとに成果と課題を整理し、改善すべき点があれば見直しを図っていきたいと考えている。

請願事項4「入試事務の改善について」のうち、(1)についてであるが、受験票や合格通知の発送等に係る経費については、受益者負担の観点から出願する側において負担することが妥当であると考えており、新しい入学者選抜制度においても、現在の方法を継続すべきと考えている。

次に、(2)についてであるが、高校入試は、中学校、高等学校の双方の教員が、保護者の協力も得ながら、それぞれの立場で万全を期し、確実に行われるべきものと考えており、このような観点から、現在の方法を継続すべきと考えている。

なお、web出願の導入については、今後、全国の動向等も注視しながら、長期的な課題として検討していく。以上の内容で、請願者に対して回答したいと考えている。

本件については、以上である。

( 質 疑 ) | 質疑なし

## 10 課長報告等

### (1) 令和元年度「みやぎ小・中学生いじめ問題を考えるフォーラムについて

(説明者：義務教育課長)

「令和元年度「みやぎ小・中学生いじめ問題を考えるフォーラム」の開催について」御説明申し上げます。資料は1ページである。

「みやぎ小・中学生いじめ問題を考えるフォーラム」は8年目を迎えた。今年度は、昨年度のフォーラムで出されたアイデアを基に、各校が実践した内容を共有し、更に充実した取組を話し合い実践することから、昨年度に引き続き中学生を対象に開催することとしている。「1」にあるとおり、本フォーラムは、生徒一人

一人のいじめへの理解を深め、いじめに向かわない心情や態度を育成するため、中学生同士が学校の枠を超えて話し合い、生徒が主体となって各学校で実行に移すことができるいじめ未然防止のアイデアを発信することをねらいとしている。今年度は、昨年度のフォーラムで提案された様々なアイデアを基に、各校が実践した内容を共有するとともに、いじめを生まない「行きたくなる学校づくり」をより一層に推進するために、生徒自身の主体的な取組について更に考えを深め、その内容を全県に周知し、実践することを目標にしている。開催日時、会場、参加者については、資料のとおりである。開会行事では、「宮城からいじめをなくそう～宮城県教育委員会から小・中学生のみなさんへ～」のメッセージを、昨年度同様、出席される委員の皆様へ直接読み上げていただきたいと考えている。ワークショップでは、これまで、大学生ファシリテーターが進行していたが、今年度は、中学生自身がファシリテーターを務める。参加する中学生が一班5から6名編成で21班に分かれ、いじめを生まない、行きたくなる学校づくりに向けて自分たちができることを話し合う。また、県内の小・中学校から募集した「いじめゼロCMコンクール」の表彰式も行う。今年度の応募総数は今日現在で、小学校44作品、中学校43作品で合計87作品となっており、過去最高となる作品数が応募されている。これまでは知事からのビデオメッセージをいただき、開会行事で放映していたが、今年度は表彰式後、直接知事から生徒へのメッセージをいただき、生徒のいじめに対する未然防止への意欲を高めたいと考えている。今年度も、フォーラムで話し合われた内容を周知し、各校の実情に応じて工夫しながら実践するよう働き掛けるとともに、実践した好事例についても積極的に発信していく。昨年度は、県内101校の中学校から162の事例が提供された。今年度も、みやぎの中学生が、いじめの問題を自分事として捉え、未然防止に向けて主体的に取り組むことができるよう働き掛けていく。

本件については、以上である。

( 質 疑 )

- 伊 藤 委 員 員 このフォーラムに毎年参加している。今の説明において、今年から大きく変わったところとして中学生がファシリテーターを務めるということであった。これまでのやや受動的な立場から、自らがアクションを起こす能動的な立場になることから、非常に素晴らしい改革になっていると感じた。ファシリテーターを務める生徒はどのように決めるのか、また、どのような生徒が務めるのか。
- 義 務 教 育 課 長 これまでは大学生にファシリテーターを依頼しており、小学生と中学生を対象に隔年実施していたことから、このファシリテーターの役割は一定の効果もあった。昨年に引き続き今回も中学生が対象ということもあり、これまでの中学生の様子からも、自分達でリーダーを決めてファシリテーターという役割も務められると考えた。また、期待も込めて子供たち自身に任せていきたいと考えている。
- 伊 藤 委 員 員 非常に素晴らしい試みである。情報化が進んだ現代において、これから社会に大きな変革があると思う。その中で生き抜くために、自分が主体的に考え、課題を見つけ、人とチームを組み、さらに様々な人とのコミュニケーションを通じて行動していくことを考えれば、こうした取組は「いじめ問題を考えるフォーラム」のみならず、他の分野においても小学生でもできる部分があると思われるし、中学生であればなお完成度が高くなる。こうした取組をさらに広めていただきたいと強く感じた。
- 義 務 教 育 課 長 子供たちが自ら考える機会を多く作っていきたい。
- 小 川 委 員 員 伊藤委員の御意見のとおり、中学生が主体となってファシリテーターを務める取組は非常に良い取組だと思う。中学生自身も自分達が抱えている課題を自分達で解決しようという力を十分に持っていると思うので、もっと委ねて任せることにより、積極的に取り組んでくれると思っていることから、とても良い取組だと思った。こうした取組の成果をどのように県内に広めていくのかが次の大きな課題になると思う。代表の子供たちが集まり勉強したことを、持ち帰って各学校でどのように共有したり広めていくのかが難しい課題であると思う。
- 義 務 教 育 課 長 全市町村から代表者が集まっている。教育委員会においても地域の代表者を集めるだけで良いのか課題となっている。例えば、いじめにあう子供はこうした代表者に選ばれ

ない子供に多いのではないかといった指摘も数年前にあった。各学校で行動するような仕掛けを県でできないか検討したところ、今回のアイデアが出たものである。また、ホームページ上での発信は現在も行っており、全県の取組の様子が分かるようにしている。内容としては県内の101校の取組が掲載されており、その学校の取組がA4シートに簡単に紹介されているページもある。各市町村で開催しているフォーラムや各学校の生徒会等、学校現場に周知されるような仕組みをさらに検討していきたい。

## (2) 令和元年度公立高等学校入学者選抜学力検査の分析結果について

(説明者：高校教育課長)

「令和元年度公立高等学校入学者選抜学力検査の分析結果について」御説明申し上げる。資料は、2ページから3ページと別冊になる。はじめに、資料1ページを御覧願いたい。

「1 目的」であるが、本分析は入学者選抜における学力検査問題について検討し、今後の問題作成の改善に役立てること、また、検査結果から受験者の学習成果の実態を把握し、中学校・高等学校における学習指導の参考とするものである。

次に、「3 分析方法」についてであるが、分析に当たっては、全日制課程の受験者のうち、前期選抜では、25校200人、後期選抜では、50校400人の答案を抽出し、教科ごと小問ごとにその状況を分析考察している。また、これに加えて、調査書点をもとに上位、中位、下位の3つの成績層に分け、階層別の得点率や誤答傾向についても分析を行った。

「4 分析結果」についてであるが、「(1) 平均点」については、資料記載のとおりとなっている。「(2) 得点分布」についてであるが、別冊資料の4ページには、前期選抜の結果を記載している。28ページには後期選抜の結果を示しているのので、後ほど御覧願いたい。

資料3ページを御覧願いたい。「(3) 各教科の概況」では、得点率・無答率等について分析し、各教科の概況としてまとめている。各教科・分野における基礎的・基本的な事項を問う問題では正答率が高く、知識の定着がみられるが、習得した知識を組み合わせ活用し考察して答える問題や、文章や資料などから情報を読み取り、読み取った情報を基に考えて、的確に表現して答える問題については、正答率及び得点率が低く、無答率も高い傾向にある。これらのことから、中学校・高校ともに、基礎的・基本的な知識及び技能を単に習得させるだけでなく、習得した知識を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成するため、各教科において、協働的な活動等を適切に位置づけ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業の構成や指導のあり方を一層工夫改善していくことが必要であると考えている。以上が分析結果についての報告となるが、高校入試は中学校教育と高校教育を円滑に接続させる役割を担うものであることから、この分析結果を中学校・高校双方の指導に生かすことができるよう、中学校及び高校の教員を対象とした研修会等において周知していきたいと考えている。

なお、別冊資料には、各教科のさらに詳細な「分析結果の概況」、「正答と配点」、「正答率、無答率、得点率」等を掲載しているので後ほど御覧願いたい。

本件については、以上である。

( 質 疑 )

伊 藤 委 員

この調査結果を授業でどのように生かすかが大きな課題になっている。知識の定着を実際にどのように生活の中で生かしていくのか、また、実社会に出たときどのように生かしていくのか。例えば、グラフや様々な情報からどう感じているのかを200字で書くなど、グラフや表を見て、そこから何が読み取れるかを学ぶことは、必要があると考える。例えば、グラフによっては小学校からでも可能ではないか。こうした訓練をしていくことで知識の定着が図られアクティブラーニングに役立つような感じを強く受けた。何かの機会にこうした取組を行っていただきたい。

小 川 委 員

別冊の4ページに昨年度と比較した分布図が掲載されている。教科によって昨年度から成績が上がっているものと下がっているものがあるが、この分布図をどのように見ればよいのか。昨年度と今年度では問題自体が変わっていることから、今年度に難しい問

題が出題されれば、昨年度と比較すれば成績が下がるものである。問題の難易度が統一されていれば比較ができるが、そうでない場合はどのように解釈すれば良いのか。また、分布図において、二つの山が無くなっているかどうかが見方の一つとしてあるのではないか。

高校教育課長

問題の難易度については6割程度の回答率を目標とし、極端に難しくしたり簡単にならないように作問している。過去の問題を振り返りながら、中学生なら6割程度の回答ができることを基準に考えている。しかし、実際に試験を実施してみると、思ったよりも回答できていないことが例年発生している。例えば、別冊29ページに掲載されている図6の英語について、グラフが綺麗な山にならず、特に昨年度と違う傾向として85点に一つの山があり、さらに55点にもう一つの山ができており、これまでもこのような傾向が発生している年度もあった。この傾向の理由としては問題の難易度や、生徒の学力によるものと考えられる。この点も踏まえながら、選抜に適した問題であるか、中学生の到達度がどのようなものであるかについて、二つの側面を図るデータとして活用したいと思っている。調査結果の分析については、今後、総合教育センターと協力しながら進めていきたい。

### 1 1 資料（配布のみ）

- (1) 教育庁関連情報一覧
- (2) English Camp in Miyagi 2019
- (3) 美術館特別展「平福百穂展」
- (4) 東北歴史博物館特別展「モダンデザインが結ぶ暮らしの夢」
- (5) 公開シンポジウム 宮城に息づく民俗芸能－異伝の法印神楽編－

### 1 2 次回教育委員会の開催日程について

伊 東 教 育 長 次回の定例会は、令和元年8月7日（水）午後1時30分から開会する。

### 1 3 閉 会 午後3時50分

令和元年8月7日

署名委員

署名委員